

幼稚園だより

2月号

ちよだ



令和8年1月30日
千代田区立千代田幼稚園
園長 須藤 敏之

心の落ち着きを育む「お茶会」

園長 須藤 敏之

一年で最も寒さの厳しい季節となりましたが、子どもたちは寒さに負けることなく、園庭や教室で元気いっぱい遊び、毎日いきいきとした表情で園生活を送っています。吐く息が白くなる朝も、子どもたちの笑顔や声に、私たち大人の心まで温められる思いがします。

さて、1月23日には、新年の行事の一つである茶道体験「初釜のお茶会」がありました。千代田幼稚園では、裏千家の影山先生をお迎えし、季節ごとにお茶会を開催しています。

この日は、3歳児ばら組の子どもたちが、初めて和室に入り、お茶会に参加しました。畳の部屋で正座することに、私たち職員は「大丈夫かな」と少し心配もしていましたが、始めてみると、もじもじしながらも最後まで座って参加できる子が多く、その姿に感心させられました。見慣れない空間の中でも、周囲の様子を感じ取りながら一生懸命に過ごそうとする姿は、とても微笑ましいものでした。初めて口にする緑色の抹茶に驚いた表情を見せつつも、茶菓子の紅梅とともに味わい、「おいしい」「ちょっと苦いね」と素直な感想を口にする姿からは、全身で新しい体験を受け止めている様子が伝わってきました。

4歳児さくら組の子どもたちは、これまでの経験があるからでしょうか、正座の姿勢も安定し、静かにお茶会に臨む姿が見られました。お茶を点てる音や先生の所作をじっと見つめる表情には、「知ってるよ」「分かっているもん」という自信が感じられ、この一年の成長を実感するひとときとなりました。抹茶と紅梅を落ち着いていただきながら、お茶会の時間そのものを楽しむ姿が印象的でした。

そして、5歳児すみれ組の子どもたちは、さすが年長さんです。背筋を伸ばして正座し、もじもじすることなく影山先生のお話を最後までしっかりと聞く姿は大変立派でした。甘い紅梅と抹茶のほろ苦さを味わいながら、静かな場の空気を大切にしようとする姿勢から、これまでの積み重ねの大きさを強く感じました。両手をついてお辞儀する姿も様になってきました。すみれ組は、2月下旬にも「桃のお茶会」が予定されています。大好きなお家の方をお招きして、子どもたちがお茶でおもてなしするのです。これまで学んだことを生かして、精一杯務めてくれることを期待しています。

お茶会の時間は、単にお茶をいただくだけの行事ではありません。静かに待つこと、人の話に耳を傾けること、感謝の気持ちをもつことなどの体験を通して、日本の伝統文化に親しみ、心の落ち着きや感性を育てていく、幼児期ならではの大切な学びであると考えます。

これからも、こうした行事や日々の園生活の積み重ねの中で、子どもたちの小さな変化や育ちを丁寧に見守りながら、心豊かな一日一日を送ってまいります。2月も、皆様のご理解と温かなご支援をよろしくお願いいたします。



千代田幼稚園のホームページもご覧ください。